



TITLE:

露國ニ於ケル資本主義ノ發達ノ特徴ト最近ノ大革命(八)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

CITATION:

米田, 庄太郎. 露國ニ於ケル資本主義ノ發達ノ特徴ト最近ノ大革命(八). 經濟論叢 1918, 6(5): 675-689

ISSUE DATE:

1918-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127376>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第六卷 第五號

大正七年五月一日發行

論說

生産政策力分配政策力……………法學博士 河上 肇

所得稅ニ於ケル所得ノ統一課稅(二)……………法學博士 神戸 正雄

徳川時代ニ於ケル封建的都市ノ發達……………法學博士 瀧本 誠一

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(五)……………法學博士 田島 錦治

諾威ノ海運(一)……………法學士 小島 昌太郎

露國ニ於ケルまゝるくす說ノ發達(二)……………我國ニ於ケル營利心ノ起源及發達(四、完)……………文學士 米田 庄太郎

我國ニ於ケル營利心ノ起源及發達(四、完)……………文學士 銅 直 勇

時事問題

日用品市場ニ就テ……………法學博士 戸田 海市

雜錄

南露ニ於ケル獨逸住民(一)……………文學士 長 壽 吉

續獨逸經濟學界近況(三、完)……………文學士 米田 庄太郎

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(三、完)……………文學士 櫛田 民藏

帝國統一後ノ獨逸ノ植民の活動(三、完)……………文學士 山本 美越乃

米國ノ戰時租稅法(三、完)……………在 米 阿部 賢一

露國ニ於ケル資本主義ノ發達ノ特徵ト

最近ノ大革命 (八)

米田庄太郎

第一節 社會進化ト資本主義

(六) 客觀主義 (其二)

ブレカノフ Georgi Valentinovich Plekhanov (1857 —)

ふれかのジハ始メ革命的の人民主義ヲ奉ジ、「土地及ビ自由」ゼムリヤ、イ、ワガリヤ黨ノ組織サルルヤ、直チニ之レニ加入シタガ、更ニ該黨ガ分裂スルヤ、其ノ一派タル「黒土分配」チエルノベレザエル黨ノ主領ノ一人トナツタ。併シ政府ノ壓迫ニ堪ヘカ子テ千八百八十年瑞西ニ遁レタ。而シテ其ノ頃ヨリ露西亞革命黨ノ思想ニ疑問ヲ起シテ、まゐるくす主義ノ研究ヲ始メ、遂ニ熱心ナルまゐるくす主義者トナツタノデアル。其ノまゐるくす主義ヲ奉ズルニ至レル理由及ビ經路ニ就テハ、彼ハ千九百五年ベとるぐら―ゾニテ出版セル「社會主義ト政治的鬭爭」ニ於テ、詳シク説述シテ居ルガ、茲ニハ別ニ其等ノ點ニハ説キ及ボサズニ、直チニ彼ノまゐるくす主義的思想ノ眞髓ヲ研究スルコトトスル。

先ヅふれかのジガ主觀主義及ビ人民主義ニ加ヘタル批評及ビ攻撃ノ大要ヲ述ベテ、以テ彼ノ客

觀主義ノ根本思想ヲ示スコトスルガ、此ノ點ニ就テハ彼ハ千八百九十五年ニ公ニセル「一元主義の歴史觀ノ發達ノ問題」ニ於テ、最トモ組織的ニ又詳シク論述シテ居ル。今彼ノ論ズル處ニヨレハ、人民主義者ハ西歐ニ於ケル第十八世紀及ビ第十九世紀ノ初期ノ空想的社會主義者ト同種類ノ空想家ニシテ、其ノ主張シ又切望スル露西亞民族ノ特別ナル非資本主義的社會進化ノ思想ノ如キハ、一ノ空中樓閣ニ外ナラス。然ルニ當時ノ人民主義者ハ主觀主義思想家、殊ニラヴロフ、及ビミカイロフ等ノ思想ヲ根底トシテ居ツタノデアルカラ、ぶれかのゞハ人民主義運動ヲ排斥スルニハ、更ニ夫等ノ主觀主義思想ノ謬妄ヲ明ラカニセテバナラナカツタ。ソコデ彼ハ主觀主義派ノ思想ニ對シテ、猛烈ナル攻撃ヲ加ヘタノデアアルガ、其ノ第一ニ非難シテ居ルノハ主觀的方法論デアル。彼ハ主觀的方法ヲ種々ナル方面ヨリ批評シテ居ルガ、其ノ主眼點ハ要スルニ此ノ方法ハ環境ガ箇人ノ觀念、思想ヲ制約シ決定スルモノデハナクシテ、箇人ノ觀念思想ガ環境及ビ歴史ヲ造ルモノデアルト云フ、理想主義ノ獨斷說ヲ基礎トスルモノデアアルガ故ニ、謬見デアルト云フ事ニアルノデアアル。第二ニぶれかのゞガ非難シテ居ルノハ、社會ハ社會的諸勢力或ハ因素ノ相互作用ノ生産物デアルト云フ主觀主義ノ根本的一思想デアアル。彼ノ見ル處ニヨレバ、此ノ諸因素相互作用ノ觀念ハ何物ヲモ説明スルモノデナク、結局「環境ハ人間ヲ造リ、又人間ハ環境ヲ造ル」ト云フ、或ハ「人性ノ發達ハ其ノ集團的欲求ニヨリテ説明セラレ、又集團的欲求ノ發達ハ人性ノ發達ニヨリテ説明サレル」ト云フ惡循環ニ歸着スルモノデアアル。而シテカカル惡循環ヲ脱却シテ、眞實ニ社會現象ヲ説明スル爲メニハ、吾人ハ「與ヘラレタル國民ノ諸特性、并ニ其ノ政治的形態ヲ創造

スル其ノ歴史的一因素、即チ彼等ノ相互作用ノ可能其物ヲ創造スル其ノ一因素ヲ發見セネバナラヌ。而シテ彼ハまゝるくすノ唯物史觀說ニヨリテ、此ノ因素ノ何物デアルカガ始メテ明白ニ理解サレルト考ヘタノデアル。ぶれかのゾハ第三ニ、進歩ノ一因素トシテ偉人ノ役目ヲ甚ダ重要視スル主觀主義ノ思想ヲ非難シタ。彼ノ見ル處ニヨレバ、一時代ノ特質ハ其レニ先立ツ前時代ノ特質ニ結ビ付ケテ考ヘテ、始メテ十分ニ理解サレルモノデアル。サレバ天才家ナルモノハ精々ノ處デ新ニ發生シツツアル社會的關係ノ意義ヲ、同時代ノ他ノ人々ヨリモ、ヨリ早ク觀破スルト云フ意味ニテ、彼等ニ勝ツテ居ルダケデアル。要スルニ天才家モ彼ノ環境ノ一生產物ニ外ナラヌ。而シテ進化ノ辨證法的過程ハ、何等定マレル目標ヲ有スルモノデナク、萬法ハ變化ノ過程中ニ流轉スルモノデアルカラ、進歩ノ公式ナルモノハ、只空想ノ產物ニ過ギズシテ、何等現實ナル意義ヲ有スルモノデナイ。

以上述ベシ處ニヨリテ、ぶれかのゾハ如何ナル意味ニテ主觀主義ヲ排斥セントシタカラ、大體上察知スルコトガ出來ルガ、余輩ハ更ニ彼ノ哲學的思想ノ根本のナルモノヲ考究シテ、以テ彼ノ客觀主義ノ眞義ヲ明ラカニシタイト思フ。

今ぶれかのゾハ、自カラ「辨證法的及ビ一元主義的唯物論者」デアルト稱シテ居ルガ、此ノ名稱ハまゝるくす主義ヲ遵奉スル彼ノ思想ノ特質ヲヨク表現スルモノト思ハレル。彼ハ認識論ニ於テハえんげるすノ素樸的實在撰寫說ヲ奉ジ、ツマリ「菓子ノ味ハ喰テ見テ別ル」ト云フ立場ヲトツテ居ツタ。而シテ左ノ語ハ彼ノ認識論の基本公式ヲ表示スルモノト云ハレテ居ル。即チ「吾人

ハ吾人ノ意識ヨリ獨立シテ存在シ、吾人ノ感官ノ上ニ働キ、夫レニヨリテ吾人ニ於テ一定ノ知覺ヲ覺醒セシムル其等ノ事物ヲ、物質的事物或ハ物體ト云フ。而シテ其等ノ知覺ハ吾人ノ表象ノ基本要素トシテ外界ヨリ、即チ正シク其等ノ物質的事物并ニ彼等ノ相互的關係ヨリ、吾人ノ中ニ入リ來ルモノデアル」。此クテ彼ハ眞理ノ標準ハ我ノ中ニアルノデハナクシテ、我ノ外ニ存在スル關係ノ中ニ在ルト考ヘタ。サレバ彼ノ考ヘニヨレバ、其等ノ關係ヲ正當ニ表ハス意見ガ、即チ眞實ニシテ、然ラザルモノハ總テ誤謬デアル。自然ノ現象ノ相互關係ヲ正當ニ擷マヘル自然科學ノ理論ガ眞實デアル如ク一定ノ時代ノ社會的關係ヲ正當ニ描寫スル歷史的記述ハ眞實デアル。而シテ人生ヲ眞ニ理解スル鍵ハ、實ニ辨證法^{ディアルクティク}デアルノデ、始メテ之ヲ吾人ニ與ヘタルヘーげるハ、實ニ偉大ナル思想家デアル。辨證法ハ一切ノ生命ノ原理デアル。科學的知識ノ精神デアル。而シテ今萬法ハ總テ辨證法ニ從ツテ動キ變化スルモノトスレバ、各現象ハ自己ノ存在ヲ制約スル其等ノ力ノ働キニヨリテ、早晚必然的ニ自己ノ反對ニ轉化シナケレバナラス。又此ノ如ク各現象ハ自カラ自己ヲ否定スルモノトスレバ、如何ナル社會制度モ絶對的或ハ永久的價值ヲ有スルモノデナク、只其ノ時、其ノ場處ニ於テ善デアルノミデアル。此クテ辨證法ハ一切ノ理想、一切ノゆゑトビヅメ根本的ニ排斥スルモノデアル。併シ理想主義的辨證論者ハ辨證法ヲ論理的思惟ト同一視セシガ爲メニ、萬事ヲ人性ニヨリテ説明セントスル舊キ謬見ヲ脱却スルコトガ出來ナカツタ。ツマリ彼等ハ辨證法ノ眞義ヲ理解シナガラ、之ヲ正當ニ運用スルコトガ出來ナカツタノデアル。而シテ辨證法、主觀的理想主義ヨリ解放シテ、客觀的唯物主義ニ適用シタル功績ハ、實ニふお見える

ばつは及ビばうえる兄弟、殊ニまゐるくす及ビえんげるすニ歸スルノデアル。吾人ハまゐるくす及ビえんげるすニヨリテ、人性及ビ一切ノ社會的關係ハ全ク箇人ノ願望ヤ理想ヨリ獨立スル歷史的過程ノ、常ニ變化シツツアル生産物デアルコトヲ、始メテ十分ニ理解スルコトガ出來タノデアル。要スルニぶれかのゞハまゐるくすニ從フテ、へゝげるノ唯心主義的辨證法ヲ唯物主義的辨證法ニ轉化セシメ、又まゐるくすが同一ノ精神ニヨリテ叙述セル社會進化史ヲ、一ノ社會學的理論トシテ發達サセヤウト企ダテタノデアル。尙ホ其ノ後まゐるくす主義ノ認識論的及ビ形而上學的基础ニ關シテ、露西亞ノまゐるくす主義者間ニ大ナル論爭ガ起リ、修正派ハかんと、殊ニ新かんと派ノ説ニ結ビ付ケテまゐるくす主義ヲ解釋セントシ、又之レニ對シテ正統派まゐるくす主義者ノ一派ハ、あぐえなりうすやまづは等ノ經驗批判主義ニ依頼セント企ツルニ當テ、ぶれかのゞハすびのぞノ哲學ニまゐるくす主義ヲ結ビ付ケテ、其ノ新シキ説明ヲ試ミントシタガ、併シ此ノ試ミハ甚ダ理由ナキモノト思ハレル。是レまゐるくすノ認識論ヲあぐえなりうすやまづはノ説ニ結ビ付ケルコトハ敢テ不可能デナイガ、否ナ或意味デハまゐるくす主義ノ認識論ヲ一層深ク發達サセタモノト見ルコトガ出來ルガ、併シすびのぞトまゐるくすトノ間ニハ、甚ダ重大ナル根本的差異ガアツテ、両者ヲ適當ニ結ビ付ケルコトハ、到底不可能デアルト思ハレルカラデアル。且ツぶれかのゞノ此ノ企ダテハ彼ノ社會的思想ノ上ニ別段影響ヲ及ボシタトハ考ヘラレナイカラ、茲ニハ此ノ點ニ關スル彼ノ思想ノ叙述ハ全ク省イテ置ク。而シテ直チニ彼ノ社會進化論ヲ考究スルコトトスル。

今ふれかのゾノ社會進化論ノ根本的思想ハ、彼ノ左ノ語ニヨリテ簡明ニ云ヒ表ハサレテ居ルト思フ。即チ「人間ハ生存スル爲メニハ、其ノ有機體ヲ支持セネバナラヌ。而シテ此ノ支持ハ人間ガ自然的環境ヲ利用スルコトニヨリテ得ラレルノデアル。然ルニ人間ガ自然的環境ヲ利用スル或ハ之レニ依屬スルト云フコトハ、ツマリ人間ガ自然ノ上ニ一定ノ反動ヲ行ナフト云フコトヲ前定スル。併シ人間ハ自然的環境ニ反動スル間ニ、又其ノ性質即チ人性ハ變化スルノデアル」。是ヨリ彼ハ此ノ根本的思想ヲ、如何ニ展開シテ、以テ社會ノ進化ヲ説明セント試ミタカヲ簡單ニ説述シテ見ヤウ。

夫レ吾人ノ人類前の祖先ハ他ノ總テノ動物ト同ジク、始メニハ全ク自然ニ服從シ、之レニ支配サレテ居ツタモノデアル。而シテ彼等ノ發達ハ環境ニ適應スルコトト、自然淘汰ノ作用トニヨリテ、全ク無意識的ニ行ハレテ居ツタ。サレバ此ノ時代ニ於テハ、吾人ハマダ何等自覺ノ徵候ヲ認メルコトガ出來ナイ、隨フテ自由ハ全ク存在シナカツタ。ツマリ此ノ時代ハ物質的必然ノ支配スル時代デアツタ。然ラバ人類ハ如何ニシテ他ノ動物ヨリ分化シテ、以テ特別ナル發達ヲナスヲ得タルヤト云フニ、是レ即チ道具ヲ發明シテ之ヲ使用スルコトヲ學ビシコトニヨリテデアル。即チ道具製作動物或ハ道具使用動物トナレルコトニヨリテ、人類ハ特別ナル發達ノ途ニ上ツタノデアル。サレバ道具ノ發明ハ人類ノ發達上甚ダ重大ナル意義ヲ有スルモノニシテ、其ノ意義ヲ十分ニ理解スルニ非ラズバ、人類ノ發達ヲ眞ニ理解スルコトハ到底出來ナイノデアル。

今人類ハ最初如何ニシテ道具ヲ發明セシカハ、確實ニ知ルコトハ出來ナイガ、併シ人類ヲシテ

道具ヲ發明スルダケノ知力の發達ノ程度ニ達セシメタルモノハ、地理的環境ノ影響デアラウト思ハレル。トニカク道具ノ發明ハ、人類ノ發達ニ對シテ、宛モ有機體ニ新シキ機官ノ加ハリタルト同様ナ意義ヲ有スルモノニシテ、吾人ハ道具ヲ以テ人類ガ自然ヲ利用スル爲メニ發達サセタル人工的機官デアルト見做シ得ルノデアル。併シ道具ト有機的機官トノ間ニハ、重大ナル差異ガアル。有機的機官ハ有機體ニ從屬シ、之レニ支配サレテ、其ノ發達ハ自然ニ制限サレテ居ルガ、道具ハ人間ノ身體ヨリ獨立シ、其ノ支配ヲ離レ無制限ニ發達シ得ル。斯クテ道具ノ發明及ビ其ノ無制限ナル發達ニヨリテ進行スル人類ノ發達ハ、又無制限トナルノデアル。

夫レ道具即チ生産技術、即チ生産力ノ發達ハ、漸次ニ自然ヲ多少人類ノ意識的意志ニ服從セシムルニ至ル。而シテ其ノ發達ノ度合ハ、自然ニ對シテ人間ノ加フル統制ノ範圍ヲ決定スルモノデアル。併シ生産力ノ發達其物ハ、人間ノ意志ニヨリテ自由ニ支配サレルモノデナク、先ヅ地理的環境ノ特性ニヨリテ大ニ制約サレル。而シテ其ノ點ヨリ見レバ、自然ハ人間ヲシテ自己ヲ利用セシムルニ爲メニ、自カラ之レニ其ノ手段ヲ呈供スルモノデアルト云フコトモ出來ル。實ニ道具ノ發明使用及ビ其ノ連續的完成ノ機會ヲ與フモノハ、地理的環境ノ特性デアルノデアル。次ニ生産力ノ發達或ハ道具ヲ使用スル能力ノ發達ヲ制約スルモノハ、既ニ到達サレタル發達ノ程度其物デアル。即チ一定ノ時代ニ於ケル人類ノ道具使用ノ能力、或ハ生産力ノ發達ノ度合ハ、既ニ到達セル發達ノ度合ニヨリテ制約サレルノデアル。此クテ一定ノ時代ニ於ケル一定ノ人民ノ將來ノ發達ハ、其ノ既ニ到達セル發達ノ度合ニ依屬スルノデアル。例ヘハ古代希臘ノ奴隸制度ハ、あるきめ

ちすノ發明ノ實用ヲ不可能ナラシメタルガ如キモノデアル。但シぶれかのうハ人間ノ知力ハ發明ノ根源デアルコトヲ認メテ居ルガ、併シ其ノ發明力ノ働ク方面或ハ實際的形體ヲ決定スルモノハ經濟的背景デアルト考ヘルノデアル。此クテ生産力ノ發達ノ新シキ方面ハ、常ニ其ノ既ニ到達セル度合ニヨリテ制約サルルモノト見ルノデアル。

却説生産力ノ發達ノ一定ノ狀態ガ確立スルト、之レニ決定サレテ經濟的關係ノ一定ノ組織ガ確立シ、以テ一定ノ時代ノ社會組織及ビ文化發達ノ基礎又ハ地盤ヲ造ル。而シテ先ヅ其ノ經濟的地盤ニ適應シテ、其ノ上ニ一定ノ社會的政治的組織ガ成立シ、次ニ一部分ハ直接ニ其ノ經濟的地盤ニヨリテ決定サレ、又一部分ハ其ノ上ニ建設サレル社會的政治的組織ニヨリテ決定サレテ、茲ニ社會人ノ一定ノ心理狀態ガ發達スル。而シテ次ニ又其ノ心理的特性ヲ反照スル諸般ノ觀念現象(道德、宗教、學問、藝術、人生觀等)ガ發達スルノデアル。一見スレバ純然タル倫理運動或ハ宗教運動ト思ハルルモノモ、其ノ根底ヲ探クレバ必ズ一定ノ經濟的原因ガ發見サレルノデ、之ヲ決定スル根本的原因ハ必ズ經濟的ノモノデアルノデアル。「夫レ生産力ノ發達ニ於ケル各々ノ新シキ階段ハ、人々ヲシテ其ノ日常生活ニ於テ、過ギ去リツツアル生産形態ニ對應セザル新シキ關係ニ入ラシムル。而シテ此等ノ新シキ、從來嘗テ存在セザリシ關係ハ、人々ノ心理狀態ニ反照シテ之ヲ變更セシムル。併シ如何ナル方向ニ變更セシムルカ。社會ノ或成員ハ在來ノ舊社會秩序ヲ防衛スル。彼等ハ靜的ナ人々デアル。併シ他ノ多數ノ人々ニハ舊社會秩序ハ有益デナイカラ、新社會秩序ヲ求メル。此クテ彼等ノ心理狀態ハ新シキ生産關係ノ方向ニ於テ變更スル。而シテ其等ノ

新シキ生産關係ハ遂ニハ舊生産關係ニ取代ハルモノデアル。此クテ革命ガ成就スル。而シテ一度此ノ革命ガ成就スルト、社會ノ心理ト經濟組織トノ完全ナル相關或ハ調和ガ成立シ、新シキ經濟ノ地盤ノ上ニ、新シキ心理ガ繁榮スル。且ツ此ノ相關の關係ハ一定ノ期間何物ニモ攪亂サレズニ持續スル。否ナ益々完成シ行キサヘモスル。併シ何時トハナシニ段々新シキ生産關係ガ發達シテ、舊生産關係ガ減ビ行ク。而モ社會ノ心理ハ元ノママニ持續シテ、生産關係ノ發達ニ後レ、再ビ後ニ殘サレル。サレド社會ノ心理ハ早晚經濟の背景ニ順應セズニ止ムモノデナイカラ、遂ニハ再ビ新シキ生産關係ニ順應シ始メル。而シテ其ノ新シキ生産關係ハ即チ將來ノ經濟組織ノ芽デアルノデアル。」

併シ實際ニ於テ社會ノ進化ハ、右ニ述ベシガ如ク單純ニ進ムモノデナイ。是レ各社會ノ歷史的の環境ハ單純ナモノデナイカラデアル。其ノ中ノ一社會團體ノ歷史的の環境ハ、他ノ社會團體ノ歷史的の環境トハ種々異ナツテ居ル。而シテ一ノ社會内ニ存在スル此ノ歷史的の環境ノ種々ナルコトト、經濟的關係ノ差異トガ相合シテ、茲ニ階級闘爭ガ強烈トナリ、其ノ階級闘爭ハ種々ナル政治的及ビ產業的の團結ニヨリテ表現スル。要スルニ階級闘爭ハ抽象的の辯證法的の唯物主義ノ現實的の具體的の表出デアル。而シテ階級闘爭ハ歷史的のニハ先ヅ原始共產團體ノ瓦解ニ於テ現ハレル。此ノ瓦解ニヨツテ社會内ニ不平等ガ起リ、相異ナレル又屢々相矛盾セル利益ヲ具有スル諸階級ガ發生シ、其ノ後彼等ハ公然ニ又ハ隱然ニ、絶ヘズ相互ニ闘爭ヲ續ケテ居ル。而シテ其ノ闘爭ハ又彼等ノ人生觀ヤ宗教觀ヤ倫理觀ヤ其ノ他ノ觀念生活ノ諸方面ニ於テ反映サレテ來ルノデアル。

ふれかのやが社會ノ進化ヲ説明スル原理トシテ論述セル主要思想ハ、以上述べシガ如キモノデアルガ、然ルニ今若シ社會ノ進化ハ根本的ニハ生産力ニ支配サレテ、必然的器械的ニ行ハルモノニシテ、箇人ハ之ヲ如何トモナシ難キモノデアルトスレバ、箇人ハ常ニ必然ノ世界ニ住シ、永久ニ自由ノ境涯ニ入ルコトガ出来ナイモノデアルカト云フ問題ハ、自カラ起ツテクル。ツマリ社會ノ必然的進化ト箇人ノ自由トノ關係如何ト云フ問題デアル。而シテ此ノ問題ニ就テふれかのやノ論ジテ居ル要旨ハ下ノ如クデアル。夫レ社會進化ノ根本的原動力タル生産力ノ發生ハ、地理的ノ環境ニヨリテ決定セラレ、又其ノ發達モ大ニ之レニヨリテ制約サレル。サレバ社會的構造ノ發達ハ根本的ニハ地理的ノ環境ニヨリテ決定又ハ制約サレテ居ルノデアル。併シ一定ノ社會的關係ガ一度成立センカ、其ノ後ノ發達ハ直接ニハ、社會的關係夫レ自身ノ内部的法則ニヨリテ支配サルモノデアル。而シテ夫レニヨリテ生産力ノ發達モ、亦或ハ促進サレ、或ハ拘束サレル。此クテ地理的ノ環境ハ、直接ニ人類ノ上ニ働カズシテ、歴史の環境ヲ通ジテ働クコトナリ、人間ト自然トノ關係ハ大ニ間接的トナツテクル。要スルニ社會進化ノ最初ノ階段ニ於テハ、地理的ノ環境ハ直接ニ人類ヲ支配スルガ、後ノ階段ニ於テハ人類ハ物質的ノ環境ヲ利用シツツ、自カラ造レル新シキ奴隸制度即チ經濟的必然ニヨリテ支配サレルノデアル。而シテ此ノ經濟的必然ハ生産力ノ増長ト共ニ増大シ、且ツ之レニ伴ナフテ社會的關係ハ益々複雑トナルノデアル。此ノ新シキ社會的過程ハ、其ノ發達スルニ從フテ、全ク社會的統御ヲ脱却スル傾向ヲ呈シ、生産者ハ全ク自己ノ生産物ノ奴隸トナツテクル。而シテ此ノ形勢ハ西歐諸國ニ於テ、今日見ル處ノ資本主義的生產ノ無政府

狀態ニヨリテ、最トモ明白ニ示サレテ居ル。併シ之レト同時ニ生産的及び社會的關係ノ發達ノ論理ハ、人間ヲシテ自己ノ經濟的束縛ノ眞原因ヲ理解スルニ至ラシムル。而シテ生産者ガ、自分ノ生産物ニヨリテ自分ノ束縛サレル原因ハ、ツマリ生産ノ無政府狀態ヨリ生ズルモノナルコトヲ一度自覺センカ、彼ハ自分ノ生産物ヲ自カラ組織シテ、之ヲ自分ノ意志ニ從ハシメントスル努力ヲ起シテクル。而シテ又此ノ努力ノ發達スルニツレテ、必然ノ世界ハ終リヲ告ケ、自由ノ世界ガ現ハレ、自由夫レ自身ガ一ノ必然トナツテ來ル。此クテ人間歴史ノ前口上ガ終リ、諸人ハ解放セラレテ、茲ニ眞ノ歴史ガ始マツテクルノデアル。吾人ハ辨證法的過程ノ本義ニヨリテ、上述ノ理解ヲ明ラカニ理解スルコトガ出來ルノデ、人類ノ將來ハ光明燦然タルモノデアル、決シテ悲觀ス可キモノデナイ。然ルニ今日主觀主義、懷疑主義、厭世主義、でかだん主義等ガ現ハレテ、悲觀的氣分ガ現代社會ノ一部分ニ瀰漫シテ居ルノハ、是レツマリ今ヤ滅ビ行キツツアル資本家階級ノ廢絶的傾向ヲ表現スルモノニ外ナラナイノデアル。要スルニぶれかのゾハ主觀主義ハ必然的ニ懷疑主義、厭世主義等ヲ産ミ出スモノニシテ、健全ナル樂天主義ハ只客觀主義ニ基ヅキテノミ發達スルモノト考ヘ、此ノ事ヲモ亦主觀主義ヲ排斥スル一理由トシテ居ルノデアル。

却說以上述べ來リシ處ニヨリテ、ぶれかのゾノ客觀主義ノ根本思想ヲ、大體上究明シタト思フガ、彼ハ右ノ思想ノ上カラ、露西亞ニ於テモ資本主義ハ必然的ニ發達スルモノニシテ、又之レニヨリテ露西亞ハ高等ナル社會的發達ヲナス可キモノト考ヘ、主觀主義者ヤ人民主義者ニ反對シテ、みゝる制度ノ破滅ヲ社會進化ノ必然的結果ト認メ、且ツ其ノ破滅ヲ希望スルノデアル。余ハ

彼ノ客觀主義ノ理論ニ就テハ種々ナル點ニ於テ反對ノ考ヘヲ抱イテ居ル。併シ何レノ國民モ經濟的ニ高等ナル發達ヲナス爲メニハ、必ズ資本主義ノ時代ニ進ミ、且ツ之ヲ通過セネバナラヌモノト見ル點ニ於テハ、彼ノ見解ニ贊成スル。否ナ此ノ點ハ今日何レノ文明國ニ於テモ、吾人ノ目撃スル處ノ現實ナル事實ニシテ、單ニ學者ノ意見ニ過ギナイモノデハナイノデアル。殊ニ露西亞最近ノ形勢ハ最トモ明白ニ此ノ事實ヲ示シテ居ルノデアル。サレバ露西亞ノ經濟的社會的發達ニ關スル學者ノ見解トシテ、すらゞ主義者ヤ、西歐主義者、殊ニ主觀主義者ノ見解ハ、深奥ナル思想ヲ含蓄シテ居ルニ係ラズ、實際ノ事實ノ形勢ニ矛盾シテ居ルガ爲メニ、之ヲ正當ト認メルコトガ出來ナイガ、客觀主義ノ理論ノ價值如何ハ別トシテ、トニカク其ノ資本主義ノ發達ヲ必然的ニシテ、且ツ望マシキモノト見ル點ニ於テ、該主義者ノ見解ハ現實ナル事實ニヨリテ證明サレタル正當ナル見解デアルト認メネバナラヌ。但シ資本主義ノ發達ノ必然性ハ只まゝるゝす主義ノ理論ニヨリテノミ、理解セラレ證明サレルモノデナク、他ノ學說ニヨリテモ之ヲ論證スルコトハ出來ル。否ナ余自身ハまゝるゝす主義ヲトラズシテ、他ノ學說ニヨリテ之ヲ論證セントスルノデア。併シ茲ニハ此ノ問題ニ就テ愚見ヲ述ベヤウトスルノデナイカラ、只右ノ點ヲ讀者ニ注意スルニ止メル。

終リニ余ハおれかのゞト最近ノ大革命トノ關係ニ就テ少シク述ベテ置キタイ。サキニ述ベシ如ク、おれかのゞガ千八百八十三年、瑞西ニ於テ組織セル「勞働解放團」ハ、露西亞人間ニ於ケル最初ノ社會民主主義的團體ニシテ、次ニ千八百八十五年、ベとろぐらゝニ於テ組織サレタル社會民主團ハ其ノ影響ヲ受ケテ生レタルモノデアル。而シテ千八百九十年代ニ入りテヨリ、サキニ述ベ

シ如ク、社會民主主義ハ大ニ隆盛ヲ致シテ來タガ、併シ千八百九十八年みんすくニ於テ、べとろぐらーど及ビきえぐノ「奮闘同盟團」及ビ「猶太人勞働團」ノ幹部ノ發起ニヨリテ、社會民主主義者ノ第一回大會ガ開催サルルマデハ、社會民主主義者ハ諸處ニ小團體ヲナシテ散在スルニ止マツテ居ツタ。而シテ最近ノ大革命ニ於テ、最トモ重大ナル役目ヲ演ゼル「勞兵會」ノ中堅トナレル「社會民主黨」(詳シク云ヘバ「露國社會民主主義勞働黨」)ハ此ノ大會ニ於テ始メテ、組織サレタノデアル。併シ此ノ際ニ於テ既ニ露國社會民主黨ノ分裂ノ傾向ガ、明ラカニ現ハレテ居ツタ。吾人ハ茲ニばるしえぐいきートめぬしえぐいきートノ分裂ノ徵候ヲ明ラカニ認メルコトガ出來ルノデアル。而シテ此ノ時現ハレタル社會民主黨ノ思潮ハ大體上三派ニ區別サレル。一ハぶれかのぐノ率ヒシ「勞働解放團」ノ一派ニヨリテ代表サレシモノ、二ハ「經濟主義」ヲ奉ジ、勞働者生活ノ直接改善ヲ目的トセル英國流ノ職工組合主義ノ思潮、而シテ三ハれーにんヲ以テ代表的主張者トナセル一派ノ思潮デアル。れーにん一派ノ主張ハ、秘密團體或ハ隱謀團體ノ性質ヲ帶ブル幹部ヲ組織シ、其ノ活動ニヨリテ絶ヘズ勞働者ヲ煽動シ、罷工基金ヲ巧ニ運用シテ、同盟罷工ヲ盛ニ起サセ、以テ勞働者ノ革命的能力ヲ訓練シ、且ツ近キ内ニ最後ノ大革命ヲ起サントスルコトニアツタ。要スルニ彼等ハ中央集權のニ、或ハ專制的ニ勞働者ノ革命運動ヲ指揮スル幹部組織ヲ主張シタノデアル。然ルニ其ノ後經濟主義ハ衰退シタカラ、千九百三年すどつくほるむニ於テ社會民主黨第二回大會ノ開催サレシ際ニハ、ぶれかのぐ派トれーにん派トノ衝突ガ主要ナル問題トナツタ。而シテれーにん派ハ多數者ノ贊成ヲ得タカラ、彼等ハばるしえぐいきー(多數者)ト稱セラレ、ぶれかのぐ派ハめぬしえぐいきー(少數者)ト稱セラルコトトナツタ。兩派ノ論爭

ハ 始 メ ハ 主 ト シ テ 黨 派 ノ 組 織 法 ニ 關 シ テ 行 ハ レ、れーにん派ハ峻嚴ナル中央集權主義ニヨリテ社會民主黨ヲ組織セントスルニ對シテ、ぶれかのゞ派ハカカル組織ハ黨派ノ勢力ヲ弱クスルモノトシテ、大ニ之ヲ排斥シタノデアル。併シ此ノ問題ニ關スル意見ノ差異ニ附屬シテ、種々ナル問題ニ就テ兩派ハ意見ヲ異ニスルコトナリ、遂ニハ相反目スル黨派ノ如キ感情ガ、彼等ノ間ニ發生シテ、相互ニ爭フニ至ツタノデアル。大體上カラ考察スルト、「ぼるしえぐいきー」ハ社會革命黨ト同様ナル策略及ビ手段ヲ用ヒテ、盛ニ革命運動ヲ鼓吹シ、近キ中ニ最後ノ大革命ヲ起サントシ、且ツ其ノ成功ヲ確信セルモノデアツタ。而シテ革命的先覺者ヲ專斷的指揮者トスル峻嚴ナル中央集權的組織ニヨリテ、勞働者ノ革命運動ヲ命令シ指揮セントシタノデアル。之ニ反シテ「めんしえぐいきー」ハ、假令今日最後ノ大革命ヲ成就シテモ、今日ノ勞働者ノ手ニヨリテ、實際ニ政治ヲ行ナフコトノ甚ダ困難ナルヲ覺リ、先ヅ第一ニ國內ノ革命的分子ヲ糾合シテ、之ヲ教育シ訓練スルノ必要ヲ唱へ、而シテ地方分權主義的ニ黨派ヲ組織センコトヲ主張シタノデアル。然ルニ其ノ後「めんしえぐいきー」ノ中ヨリ、更ニ狹義ノぶれかのゞ一派ハ分離シ、大革命前ニ於テハ、社會民主黨ハ「ぼるしえぐいきー」ト「めんしえぐいきー」ト「ぶれかのゞ派」トノ三派ニ別レテ居ツタ。而シテぶれかのゞ派ハ其ノ中デ最トモ穩和ナルモノトナツタ。彼等ハ國家ヲ基礎トシテ社會主義ヲ説ク、一種ノ愛國的社會主義者ト稱シテモヨイモノトナツテ居ツタ。併シぶれかのゞハ近來政治運動ニハ別ニ關係セズ、專ラ露國ニ於ケル社會運動ノ發達ヤ、社會思想ノ發達ノ研究ニ心血ヲ注キ、幾多ノ好著作ヲ公ニシ、又、文藝家ヤ思想家ノ批判的研究ニ興味ヲ起シ、其ノ方面ニ於テモ幾多ノ好著作ヲ公ニシテ居ル。而シテぶれかのゞ派ナルモノモ、實際ニ於テ其

ノ牛耳ヲ執ツテ居ッタノハ前勞兵會長ちヘーセ、前內務大臣兼遞信大臣つえれてり、前勞勳大臣すこべれふ等デアツタ。要スルニぶれかのゾハ露國ニ於テ始メテまゐるくす主義ヲ熱心ニ唱道シ、而シテ最近ノ大革命ノ中堅トナツタ社會民主黨ヲ始メテ組織シタ人デアツテ、該大革命ノ成功ノ上ニ間接ニハ大ニ貢獻シテ居ルガ、併シ本來學者肌ノ人ニシテ、政黨ヲ指揮シテ實際ノ政治運動ヲ行ナフニハ適シナイ人カト思ハレル。隨フテ該大革命ニ於テモ、多分直接ニハアマリ關係シテ居ラナカッタノデハアルマイカト思フ。但シ此ノ點ニ就テハ余ハマダ確實ナル知識ヲ有シナイカラ、只想像スルダケデアル。トニカクぶれかのゾハ學者デ、人格ノ高い人デ、知識階級間ニアリテハ、敵カラモ味方カラモ、常ニ大ニ尊敬サレテ居ルノデアル。尙ホ千九百四年八月十四日ヨリ同二十日マデ和蘭あむすてるだむ市ノけぶう音樂堂ニ於テ、萬國社會黨第六回大會ノ開催サレシ節、日本ノ社會主義者ヲ代表セル片山某ト共ニ、副會長ニ選バレタルハ、露國ノ代表者トシテノぶれかのゾニシテ、會長ノ開會演説了ルヤ、ぶれかのゾト片山某トハ相並ンデ演壇ニ現ハレ、日露戰爭中ニ拘ラズ、公然相握手シテ來會者ノ喝采ヲ受ケタガ、其ノ際ぶれかのゾハ、左ノ如キ演説ヲシタコトガ、同大會記事中ニ見ヘテ居ル。

(露國ノ人民ハ戰爭ヲ望マナカツタ。然ルニ人民ノ敵ナル政府ハ、其ノ冒險的ニシテ、又專制的ナル政策ニヨリテ日本ヲ挑發シタノデアアル。而シテ今ヤ夫レガ爲メニ露國ガ至大ナル困難ニ陥ツテ來タノハ當然ナル報ヒデアアル。露國ガ假令勝利ヲ得ルトモ、露國ノ人民ハヤハリ犠牲ニ供セラレルノデアアル。トニカク、日本ハ吾人ノ爲メニ、專制主義ノ巨像ノ一脚ヲ潰シツアルノデハナイカ)。